

読んでみよう 解いてみよう さん太のワークシート

岡山市消防局などはVR（仮想現実）の技術を活用し、避難を疑似体験できるトレーニングソフトを開発しました。記事を読み質問に答えましょう。

迫る炎、煙
火災報知機音

市消防局など トレーニングソフト開発

岡山市消防局などはVR（仮想現実）の技術を活用し、火災が発生した住宅からの避難を疑似体験できるトレーニングソフトを開発した。選択肢から適切



な行動を選び、無事に住宅の外に逃げ出すことを目指す。2023年度からイベントなどで高齢者らに実践してもらおう。
(田井香菜子)

VRでリアルな避難体験



トレーニングソフトを操作する市消防局職員。スクリーンには体験者が実際に見る映像が映し出されている

制限時間内に脱出 高齢者ら実践へ

2階建て住宅の1階台所から0秒（65歳以上）の制限時間し、コントローラーで操作する。出火したと設定し、3DCGで内へ脱出する。炎や煙を再現。自分は2階の寝 携帯電話を取りに戻るなど室におり、廊下に移るか▽不適切な行動を取ったり、消火器を使うか▽消火器を使 火に失敗したりしてタイムアウトして火を消すかーなど場面に応 応がある時間切れになる。低姿勢を取るか▽消火器を使 火に失敗したりしてタイムアウトして火を消すかーなど場面に応 応がある時間切れになる。危険。姿勢を低くして」といっ

たアドバイスが表示される。トレーニングソフトは、逃げ遅れて被害に遭いやすい高齢者を中心に火災の犠牲者を一人でも減らそうと、市消防局とVRコンテンツ制作会社の白獅子（北区津島中）、岡山大が共同で開発した。3者は20年から研究を進めてきた。
市消防局の催しや公民館の出前講座といった機会に市民が体験できるようにする。市消防局予防課は「今までにないリアルな体験を通じてさまざまな気付きがあるはず。火災時どのような行動するか、自分事として具体的に想像するきっかけにしてほしい」としている。
市消防局によると、2009〜20年に管内で発生した建物火災による死者は85人。うち65歳以上は61人と約7割を占めている。

3月25日付山陽新聞、都市圏面

Q1 このトレーニングソフトでは、どのような場所からの避難を疑似体験できますか。第1段落から抜き出しましょう。

Q3 このトレーニングソフトは、どのような目的で開発されましたか。第5段落の言葉を使い答えましょう。

Q2 避難体験では、火災時の適切な行動を選びながら制限時間内に脱出することを目指します。タイムロスとなる「不適切な行動」として、どのような事例が挙げられていますか。第3段落を読み答えましょう。

過去の問題は
こちらから▶▶

◇「さん太のワークシート」は自由にダウンロードして、学校や家庭での学習に活用してください。